

交渉速報

J R 貨物労組本部業務部

2015年5月29日

No.25

努力によって生みだされた黒字の還元は当然の要求だ！

～2015年度 夏季手当第3回交渉報告～

中央本部は、本日15時より第3回夏季手当交渉を行ない、要求の根拠を明らかにしました。

【要求の根拠】

- ①東海道線の土砂流入に際し、貨物労組組合員は全ての職場から異常時対応に奔走し、平成26年度の鉄道事業部門収益1,388億円という結果となった。この事は貨物労組組合員の努力の結果であり、努力に対して具体的な形で示すべきだ。
- ②JR貨物労組は期末手当の低額回答や2015年春闘でベアを断念するなど苦渋の決断をしてきた。現在、円安が加速し物価が上昇しており組合員の生活は厳しさを増している。会社も認めた「生活給」としての夏季手当を支払うべきだ。
- ③職場では要員需給がひっ迫している。3月ダイヤ改正では基準人員が満たない中でスタートする事態も発生している。若年退職も発生し要員不足に拍車をかけている。その中でも鉄道貨物輸送の安全確立と安定輸送の確保に昼夜を問わず組合員は奮闘している。将来展望を明らかにし、組合員のモチベーションを更に向上させるべきだ。

【要求の根拠に対する会社の考え方】

- ①昨年来、会社の施策に対して様々な形で協力をいただいたことと、東海道線不通時の貨物労組の協力に対して改めて感謝申し上げる。
- ②昨年度は32億円の経常利益を計上したが、一方で鉄道事業部門の収支は7億円の悪化となっておりトータルでも5億円の減収である。この決算の見方については好調な結果のみだと考えていない。
- ③5月28日現在、収入が伸び悩んでおり、対計画で約3億円強の減収となっている。一方で期末手当は生活給であるという認識は会社としてもっており、その要素を含めて判断する。

会社の考え方に対し、中央本部は以下のように指摘しました。

- ①夏季手当の数字に至る様々な要素はあるが、昨年度の経常利益は努力の結果である。結果が出た以上、この間の組合員の努力に報いることは経営陣の当然の責務である。
- ②経営陣は職場の実情を把握することが欠落している。東海道線寸断時、組合員は自らの職責を超えて災害対応にあたっているし、日頃の輸送障害においても通常に倍する努力をしている。一方で数々の会社施策に真摯に取り組み血をも流す判断をしてきている。今後、鉄道事業部門の黒字化、経営自立に向けて誰と協議していくのか、経営陣は明確にすべきだ。
- ③貨物労組の要求額2.6ヶ月の重みを経営陣はどのように認識しているのか。これまでの組合員の努力に対して夏季手当で具体的に示すべきであり、そうでなければ今後組合員は頑張ろうという気にはならない。それだけ今夏季手当は重みのあるものである。経営陣はその認識をもって次回会社の考え方を示すこと。

夏季手当交渉はこれから山場に向けた取組みとなっていきます。中央本部は組合員のこの間の苦労をないがしろにさせないために交渉を強化します。会社姿勢を糾す職場からの取組みを要請し、第3回の交渉報告とします。

次回、第4回交渉は、6月4日（木）です。